

【平成二十七年 全国学力・学習状況調査結果】

平成27年4月に実施した全国学力・学習状況調査の松田町立小・中学校の結果をまとめました。

【問い合わせ】教育課 学校教育係 ☎(83)7023

【目的】

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習上の改善等に役立てる。
- ・教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(1)教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

| | |
|--|---|
| 《主として「知識」に関する問題(A)》 | 《主として「活用」に関する問題(B)》 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識、技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・知識、技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な問題解決のための構想を立て実践し評価、改善する力 |

【調査の内容】

(2)質問紙調査

| | |
|---|--|
| 《児童生徒に対する調査》 | 《学校に対する調査》 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導方法に関する取組や人的、物的な教育条件の整備等の状況等に関する調査 |

【学力調査】

◆小学校

国語Aは県公立学校の平均正答率と同程度でした。(±5%以内)
 国語Bと算数A・Bと理科は県公立学校の平均正答率よりやや低いという結果でした。

○国語A

学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことや書くことについて、また、話の内容の聞き方については良好でした。
 一方、説明する文章の書き方や表現方法の工夫を捉えることに課題がありました。

○国語B

目的や意図に応じて、新聞記事の割り付けをすることや見出しを付けること、文章と図を関係付けながら、指定されたキーワードを用いることや指定された字数制限で書くことに課題がありました。

○算数A

角の大きさの見当をつけることや分度器の目盛を読み、角の大きさを求めることに課題があり、180度より大きい角の測定に慣れていくことが求められます。

○算数B

比較量と割合から基準となる量を求めることや、概数を用いた見積もりの結果から実際の必要数を考えることにも課題がありました。

○理科

水の温度と砂糖が溶ける量を表すグラフから析出する砂糖の量を分析することに課題がありました。
 また、顕微鏡の適切な操作方法やメスシリンダーで一定量の水を計り取る適切な方法など、実験観察器具の使い方の理解にも課題がありました。

◆中学校

国語A・Bと数学Aと理科は県公立学校の平均正答率と同程度でした。
 数学Bは県公立学校の平均正答率よりやや低下という結果でした。

○国語A

文脈に即して正しく漢字を書くことは良好でした。また、伝えたいことを相手に効果的に伝えるような書き方や、手紙の書き方の理解なども良好でした。
 一方、単語の類別について理解することや、古典の作品名を回答することなどに課題がありました。

○国語B

資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書くことや、複数の資料から適切な情報を選び、自分の考えを具体的に書くことに課題がありました。
 また、文章の構成や展開などを考えながら、根拠を明確にして自分の考えを書くことにも課題がありました。

○数学A

図形の証明問題の証明方法について良好な結果でした。数量の関係を表す式で表すことや一次関数の表からXとYの関係を表す式で表すこと、小数を含んだ一元一次方程式の問題や二元一次方程式の問題を解くことに課題がありました。

○数学B

与えられた情報の中から必要な情報を選択し、問題を解決することは良好でしたが、平面図形と空間図形を関連させながら問題を解決することに課題がありました。
 設問によっては、無回答率の高い問題もあり、粘り強く問題に取り組む姿勢が求められます。

○理科

天気図から風力や風向を読み取ることや化学式を書くことが良好でした。
 一方、雲が発生する成因について水の状態変化と関連付けて説明すること、凸レンズの実験結果を分析して規則性を発見することなど、主として身に付けた知識を活用する問題に課題がありました。

【質問紙調査】

◆小学校

◆生活習慣

生活習慣は「早ね・早おき・朝ご飯・朝うんち」を推進していますが、概ね全国や県と変わらない傾向にあります。比較的、生活リズムが安定していることが伺えます。

◆コミュニケーション能力

友だちの前で自分の考えや意見を発表することや、友だちの話や意見を最後まで聴くことができる割合は、全国や県よりも高く、コミュニケーション能力については、学校の授業や行事の中で取り組んできた成果が出ていると考えられます。

◆家庭生活

家で、学校の授業の予習復習を行う割合が全国や県よりも高い反面、テレビを見る時間やゲームの時間、携帯電話やスマートフォンを長時間使用している割合も全国や県よりも高く、今後改善していかなくてはならないと考えられます。

◆地域参加

地域の行事への参加が全国や県に比べて高く、地域とのかかわりを持ち、地域の中で育っていることが伺えます。
 一方、地域や社会をよくするためにできることを考える意識が全国や県よりも低い傾向が伺えます。

◆中学校

◆生活習慣

生活習慣に関しては、概ね全国や県と変わらない傾向にあると言えます。比較的、生活リズムが安定していると思われる。

◆コミュニケーション能力

友だちの話や意見を最後まで聴くことができる割合は全国や県よりも高い結果でした。しかしながら、友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意な割合は低く、今後、説明する活動を通して、説明力を高める学習が必要であると考えられます。

◆家庭生活

テレビを見る時間やゲームの時間、携帯電話やスマートフォンを使用している時間は全国や県と同程度であり、以前より改善されていることが伺えます。
 また、家の人と学校の出来事について話す割合が全国や県よりも高く、家族とのコミュニケーションがとれていることが伺えます。

◆自己肯定感

自分によいところがあると考える割合や、将来の夢や目標をもっているという割合が全国や県よりも低く、今後、自己肯定感を高め、自己有用感を育んでいくことが課題と考えられます。

今回の調査結果から

- ◎各学校においても調査結果について分析し、課題点を見つけ、その克服に向けて取り組みを教師間で共有してまいります。
- ◎これまで身に付けてきた「話す・聴く」力をより一層高め、児童生徒の言語能力を高めていきます。
- ◎基礎的・基本的な内容の定着を図り、確かな学力の定着を目指してまいります。
- ◎学び合い・伝え合いを中心とした学習の充実を図り、分かり合う喜びのある授業づくりを目指してまいります。
- ◎児童生徒の自己肯定感や自己有用感を育んでいけるよう、今後も、学校、家庭、地域との連携を進めながら、児童生徒の成長を見届けてまいります。